

## [課題演習報告]

# 高校生の規範行動と学習に向かう姿勢の向上に関する研究 —社会性と情動の学習プログラム「SEL-8Career」の作成・実践を通して—

伊藤衣里子

Eriko ITO

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻生徒指導・教育相談リーダーコース  
福岡県立稲築志耕館高等学校

(2021年1月4日受理)

本研究では、青年期中期以降を中心にキャリア発達を促進させるためのプログラムである社会性と情動の学習プログラム「SEL-8Career」を作成し、高校生に実践して社会性を育成することで、規範行動や学習に向かう姿勢の向上に効果があるかどうかを検証した。研究Ⅰでは、試行的にSEL-8Careerを1年生に実践したところ、「社会的能力全般」と「対人関係」「責任ある意思決定」「生活上の問題防止のスキル」の因子において、社会的能力低群の生徒の得点が有意に上昇した。研究Ⅱでは、SEL-8Careerを全学年に実践し、統制群の生徒と比較したところ、学年によって結果は異なるが、社会的能力、学校適応感、規範意識・規範行動のいくつかの因子において実践群の生徒に得点の有意な上昇が認められた。また、実践した教師はSEL-8Careerの実践によって生徒の社会的能力が向上したととらえていることが示された。

キーワード：高校生 社会的能力 社会性と情動の学習プログラム SEL-8Career

## 1 問題と目的

現在の日本の若者・子どもたちは、他者への思いやりの心や迷惑をかけないという気持ちの希薄化、生命尊重・人権尊重の心や正義感、遵法精神の低下、基本的な生活習慣の乱れ、自制心や規範意識の低下、人間関係を形成する力の低下などの傾向が指摘されており(文部科学省, 2009)、これらが学校でのさまざまな問題行動の背景にあると考えられる。また、高校生の学力・学習状況については、基礎学力の不足や学習意欲の面での課題が指摘されている(文部科学省, 2014)。

在籍校での規範行動面での問題は、遅刻や欠席、服装・頭髪等の校則違反、授業規律の低下、喫煙、生徒間暴力、怠学、SNSでのトラブルなど多岐にわたっている。また学習意欲が低く、希望進路の実現に必要な学力が身につけていない生徒や、単位未修得によって転退学をする生徒も増加している。よって規範行動と学習に向かう姿勢の向上は、在籍校の教育課題の解決のために不可欠であると

考える。

問題行動の主要な原因として、小泉(2011)は社会的能力の低下や欠如があると指摘しており、さらに学力・学校適応と人間関係能力の関係について、「社会性(人間関係能力)が育まれることによって自尊心が高まり、規範意識・行動や規律が身につく。それによって、基礎・基本の学習が成立し、さらに応用力を身につけ学校生活に適應することができるようになる」と述べている(図1)。

現在は都市化や少子化、IT化の進展により、大勢で遊ぶ、友人と語り合うといった他人と関わる機会が少なくなっており、子どもが家庭や地域社会で社会性を身につけるための体験が不足している。そのため学校において意図的・計画的に社会性を育成する必要性が生じている(小泉, 2011)。

そこで具体的な手立てとして「社会性と情動の学習プログラム(social and emotional learning: 以下, SEL)」に着目した。SELとは、この学習の普及を推奨しているCASELというアメリカの団体によると、「情動(感情)の理解と管理、他者への思いやりと関心を育むこと、責任ある意思決定、好ま

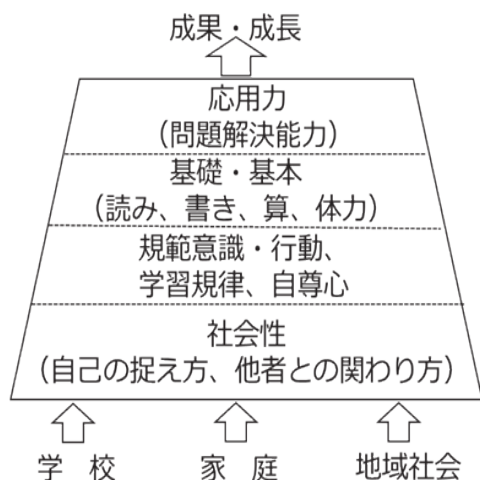


図1 学力向上のとらえ方 (小泉, 2011)

しい関係作り, そして困難な状況での効果的な対処のための能力を発達させる過程」(Collaborative for Academic, Social, and Emotional Learning, 2003)を意味しており, 小泉(2011)は, 「自己の捉え方と他者との関わりを基礎とした, 社会性(対人関係)に関するスキル, 態度, 価値観を身につける学習」と説明している。

SELは特定の学習プログラムを意味するのではなく, 数多くの学習プログラムの総称である。SELの1つであるSEL-8Careerは, 表1に示す8つの社会的能力の枠組みを用いて, 青年期中期以降を中心にキャリア発達を促進させるためのプログラムとして提案されている(小泉, 2018)。

そこで本研究ではSEL-8Careerプログラムを作成し, 高校生に実践して社会性を育成することで, 規範行動や学習に向かう姿勢の向上に効果があるかどうかを検証する。研究Iでは, SEL-8Careerを試行的に1年生に実践する。次に研究IIでは, 全学年生徒にSEL-8Careerを実践する。

## 2 研究I

表1 SEL-8Careerで育成する社会的能力 (小泉, 2018)

基礎的社会的能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己への気づき</li> <li>他者への気づき</li> <li>自己のコントロール</li> <li>対人関係</li> <li>責任ある意思決定</li> </ul>
応用的社会的能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活上の問題防止のスキル</li> <li>人生の重要事態に対処する能力</li> <li>積極的・貢献的な奉仕活動</li> </ul>

### (1) 目的

SEL-8Careerを作成し, 1年生に試行的に実践することで, 生徒の規範行動や学習に向かう姿勢の向上に効果があるかどうかを検証する。

### (2) 方法

#### 実践期間

令和元年7月～令和2年1月

#### 対象

A高等学校1年生195名と教師16名

#### 実践計画

産業社会と人間, LHR, SHRの時間にSEL-8Careerを実践し, 効果を検証する。

#### 測定内容と測定方法

生徒を対象に, 「学校環境適応感尺度(以下, ASSESS)」(栗原・井上, 2010), 「SEL-8Career 質問紙」(小泉, 2019)を用いて, SEL-8Careerの実践前と実践後に調査を行った。また, 各授業(ユニット)の実践後に, 授業の目的の達成度, 生徒の活動の様子, 生徒の振り返りシートの記入状況の3項目について, 教師用振り返りシートに授業者が評価(4件法)を行った。さらに1クラスの教師を対象に, 「SEL 8つの能力[教師による評定]」(小泉, 2011)と「教員による生徒評価[学校生活]」(小泉, 2019)を使い, SEL-8Careerの実践前と実践後に個々の生徒について調査を行った。最後に, 5回目のユニット実践後にSEL-8Careerの効果に対するアンケートを生徒と教師に実施した。その他の指標として特別指導発生状況を用いた。検証のための分析には, HAD(清水, 2016)を用いた。

#### 実践の具体的内容

##### ①SEL-8Careerの作成

実践するSEL-8Careerは, 「キャリア発達のための社会性と情動の学習(SEL-8Career)プログラムの試案構成」(小泉, 2018)をもとに, 8つの学習領域で25のユニットを作成した(表2)。ユニットとは学習の単位を意味している。1ユニットは, 1授業時間(50分)を想定しているが, 1ユニットを3つのブロックに分けて構成し, 生徒の実態によってブロックごとに短時間(10～15分)でも学習できるようにした。学習方法については, 説明を聞くだけではなく, ゲームやロールプレイといった体験型を取り入れたものとした。ロールプレイはスキルの習得や気づきを促すために適した学習方法だが, 高校生の場合, 戸惑いや恥ずかしさからロールプレイを行うことに抵抗がある可能性が予想された。そこでユニットの進行に合わせて, 教師によるモデリングから生徒自身の

表2 SEL-8Career の8つの学習領域とユニット数

記号	学習領域	ユニット数
A	基本的生活習慣	3
B	自己・他者への気づき, 聞く	4
C	伝える	5
D	関係づくり	4
E	ストレスマネジメント	2
F	問題防止	2
G	環境変化への対処	3
H	ボランティア	2

ロールプレイへと学習方法を変化させることで、徐々に心理的な抵抗を除いていけるように工夫した。さらに、学習のまとめとして生徒が自己評価を行うため、「目的の理解度」「スキルのポイントの理解度」「ポイントの使用」「今後の活用への意欲」について評価(4件法)できるようにした。

②SEL-8Career の実践

(7)実践したユニット

期間中に6ユニットを実践した。実践したユニットは、ホームルーム活動に関連させたもの(1回目)、「産業社会と人間」の授業内容に即したもの(2, 3回目)、生徒の課題に即したもの(4, 5, 6回目)であった。

(イ)実践の手続き

ユニットの実践においては、事前に学年会議でユニットの目的、指導案、教材の説明を授業者に行った。授業は担任と副担任のTTで行った。

(ウ)学習内容の定着化

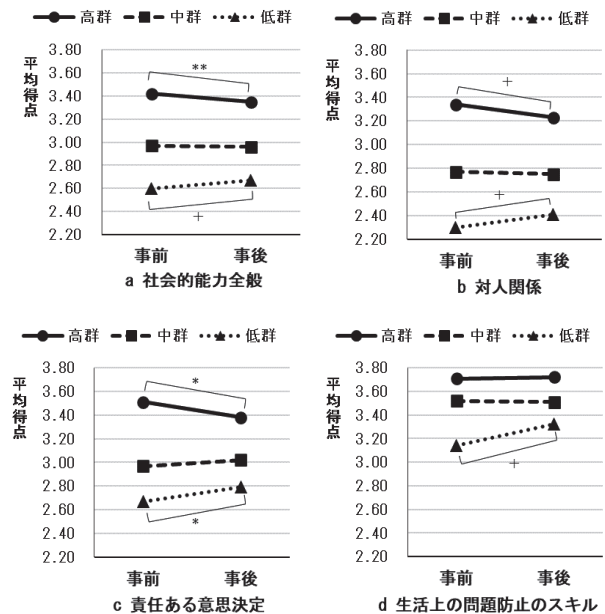
各ユニットで学ぶスキルの要点をポスターにして、1年生教室階のフロアに掲示した。また、通常の生活でも学習したスキルを使った生徒に対しての称賛を積極的に行うよう教師に促した。

(エ)通信の発行

授業終了後は全職員へのSEL-8Careerの周知を目的に研修だよりを発行した。掲載内容は、実践したユニットの目的、スキルの要点、授業中の生徒の様子、生徒の授業後の感想、SEL-8Careerの特徴、キャリア教育との関連の資料などであった。

(3)結果と考察

欠席者と回答に不備がある者を除く189名を分析対象とした。SEL-8Career 質問紙(実践前)の結果において、8つの因子尺度の平均得点の平均(M=3.00)と標準偏差(1/2SD=0.184)をもとに、上位1/3を社会的能力高群(以下、高群)(60名)、下位1/3を社会的能力低群(以下、低群)(59名)、中間



※有意差は群内のみ表示 \*\* p<.01, \* p<.05, + p<.10

図2 有意な交互作用がみられた社会的能力の変容

位を社会的能力中群(以下、中群)(70名)とした。

(7)生徒の社会的能力と学校適応感の変容

「SEL-8Career 質問紙」の8つの因子と「ASSESS」の6つの因子について、群(3)×時期(2)の分散分析を行った。「社会的能力全般」と、「対人関係」「責任ある意思決定」「生活上の問題防止のスキル」因子において低群の得点が有意に上昇した(図2)。また、「学習的適応」因子において、すべての群の得点が上昇した。

低群の得点が上昇したのは、SELプログラムの実践効果が社会的能力の自己評価低群に現れやすい(宮原・小泉, 2009)ことを実証するものであった。また高群と中群の得点が上昇しなかったことは、学習によって評価基準が厳しくなり、自己評価が上がりにくくなった可能性が考えられる。

(イ)教師の評価の変容

1クラスの「SEL 8つの能力[教師による評定]」の8因子と「教員による生徒評価[学校生活]」の3因子について、群(3)×時期(2)の分散分析を行ったが、各因子の変容はみられなかった。これは、実践後の調査時にクラスで人間関係に関する問題が起きており、このことから担任の評価が下がったことが原因と考えられる。

(ウ)SEL-8Career の効果に対するアンケート

5回のユニットを実践した後、生徒と教師にSEL-8Careerの効果に対するアンケートを実施した。生徒には「自己理解」「人間関係」「将来への展望」「奉仕の精神」「今後の活用への意欲」の5項目を4件法で質問した。どの項目も高群、



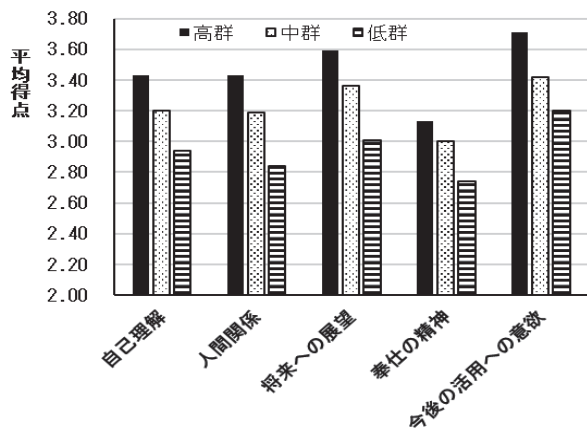


図3 SEL-8Career の効果に対するアンケート（生徒）

中群，低群の順に得点が高かった（図3）。また，「奉仕の精神」の項目以外は，各群の間に得点の有意差があった。社会的能力の自己評価が高い生徒ほど，SEL-8Career の効果を感じていることが分かった。教師には，生徒の変化と今後の期待について，「自己理解」「他者理解」「目標達成への姿勢」「周囲との協力関係の構築」「重要事態に対処する能力」「奉仕の精神」の6項目を4件法で質問した（N=13）。この結果から，生徒の実態としてまだSEL-8Career の効果は見えていないが，継続していくことで効果が期待できると感じることが分かった（図4）。

#### (I) 特別指導発生状況

実践期間中の1年生の特別指導（停学及び訓告）発生件数は2件，昨年度は7件，一昨年度は7件であった。昨年度，一昨年度に比べると件数は減少しているが，SEL-8Career の効果であるかどうかの検証は難しい。次年度以降の継続的な実践により，どのように変容するかを検証していく必要がある。

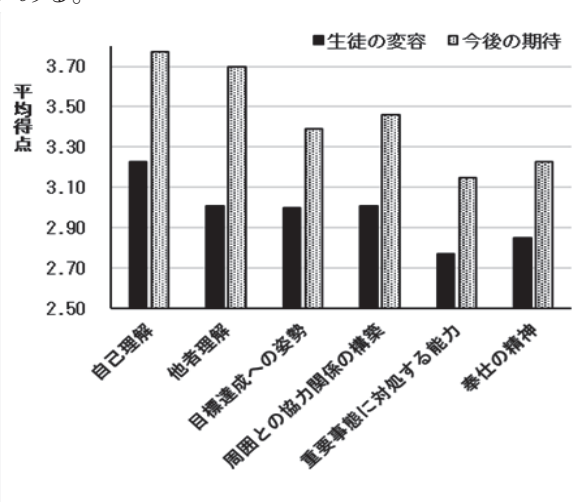


図4 SEL-8Career の効果に対するアンケート（教師）

### 3 研究II

#### (1) 目的

SEL-8Career を全学年生徒に実践し，生徒の規範行動や学習に向かう姿勢の向上に効果があるかどうかを，協力校（統制群）と比較して検証する。

#### (2) 方法

##### 実践期間

令和2年5月～令和2年12月

##### 対象

在籍校全学年生徒（647名）と教師（48名）および協力校（統制群）の全学年生徒（428名）

##### 実践計画

研究Iの結果と新型コロナウイルス感染症に係る休校措置による教育活動の変更を踏まえ，産業社会と人間，総合的な探究の時間，LHR，SHRの時間にSEL-8Careerを実践し，効果を検証した。

##### 測定内容と測定方法

実践校の全学年生徒を対象に，「ASSESS」（栗原・井上，2010），「SEL-8Career 質問紙」（小泉，2019），「規範意識・規範行動」（小泉，2011）を用いて，SEL-8Careerの実践前，実践後に調査を行った。また協力校の全学年生徒を対象に，実践校と同時期に同様の調査を行った。さらに，実践校の全教師を対象に，「SEL 8つの能力〔教師による評定〕」（小泉，2011）と「教員による生徒評価（学校生活）」（小泉，2019）を使い，SEL-8Careerの実践前と実践後に調査を行った。最後に，12月のユニット実践後にSEL-8Careerの効果に対するアンケートを全学年生徒に実施した。その他の指標として，出席状況，特別指導発生状況を用いた。

##### 実践の具体的内容

#### ①SEL-8Career の実践

##### (7) 実践したユニット

期間中に1年生8ユニット，2年生，3年生はそれぞれ6ユニットを実践した（表3）。新型コロナウイルス感染症により，ほとんどの学校行事や校外学習活動が中止となったため，それらと関連させて実践する計画であったユニットは中止，または時期を変更して行った。

##### (4) ユニット実践前の手続き

昨年度から実践を行っている2年生所属以外の教師に対し，1回目のユニット実践前にSEL-8Careerの概要について説明する時間を設けた。

各ユニットにおける指導案の協議は，学年会議等で時間を設けて報告者と全授業者で行った場合と，報告者と学年担当者との協議後，学年担当者が授業者に伝えた場合があった。後者の場合は，

表3 研究Ⅱの実践ユニット

学年	回	月日	ユニット名
1年	1	5/28	D1友だちや知人をつくろう
	2	6/24	B1上手に聴こう
	3	7/1	A1時間を大切に
	4	8/27	C1気持ちの伝え方
	5	9/23	E1ストレスとうまくつきあおう
	6	11/5	G1自分らしさをいかそう
	7	11/11	B2自分の長所・短所
	8	12/2	C2顔の見えないコミュニケーション
2年	1	6/24	C2顔の見えないコミュニケーション
	2	9/23	E1ストレスとうまくつきあおう
	3	10/15	G2何のために働くのか?
	4	10/29	C4わからないことを聞く
	5	11/11	B3自分の考え方の特徴を知ろう
	6	12/2	H2ちょっとした声かけ
3年	1	5/27	D2みんなが納得するために
	2	6/24	A3初対面の人へのあいさつ
	3	6/25	B3自分の考え方の特徴を知ろう
	4	9/23	E1ストレスとうまくつきあおう
	5	10/22	D4要領よく上手に話そう
	6	11/11	C5上手な頼み方と断り方

報告者が授業のポイントについて指導案に詳しく書き込む形で対応した。

報告者と授業者が直接協議できなかつた場合は、授業者によって流れが変更され、ユニットの目的から外れてしまう場合があった。このことから、中間報告後以降は、学年主任と調整を行い、臨時に協議のための会議時間を設定したり、数回に分けて協議の場を設けたりすることで対応した。

**(f) 学習内容の定着化**

各ユニットで学ぶ気づきやスキルの要点をポスターにして各学年教室階のフロアに掲示した。また、生徒昇降口の連絡用モニターにも同様の内容を提示した。

**(g) 職員研修**

6月19日にSEL-8Careerの概要について、福岡教育大学教職大学院小泉令三教授を講師に招き、全教師対象の職員研修を行った。グループワークでは、活発に意見を交換する姿が見られた。また、教師の気づき・感想(表4)から、SEL-8Careerの取り組みに関する意欲が向上したことが推察された。また、8月26日に行われた職員研修では、SEL-8Careerの実践状況の確認や、実践方法、疑問点などの協議を行った。さらに小泉令三教授か

表4 校内研修(6月19日)の教師の感想

- 今後もこの取り組みを続けていくことで、学校が変わる要素があると感じている。
- 自己肯定感が低い生徒が多いので、この取り組みを通して少しでも生徒に自信をつけさせたい。
- 今の生徒には様々な場面で困難なことに会ったときそれに対処する力が必要だと思う。そのためにもSEL-8Careerの取り組みが重要になってくると感じられた。
- 本校はコミュニケーション能力が低い生徒が多いと思う。社会に出る前にSEL-8Careerを通してコミュニケーション能力を育成したい。

らSEL-8Sの実践の成果についての講演や、SEL-8Careerの実践についての助言の時間を設けた。

**(e) 通信の発行**

SEL-8Careerの実践に合わせ、ユニットの内容、生徒の様子、生徒の感想、教師の振り返り等を掲載した通信を発行した。

**(3) 結果と考察**

欠席者と回答に不備があるものを除く、実践群の1年生217名、2年生179名、3年生184名と統制群の1年生150名、2年生107名、3年生144名を分析対象とした。

**(7) 社会的能力、学校適応感、規範行動の変容**

「SEL-8Career 質問紙」の8つの因子、「ASSESS」の6つの因子、「規範意識・規範行動」の3つの因子について、群(2)×時期(2)の分散分析を行った。

1年生において、「SEL-8Career 質問紙」では「社会的能力全般」に有意な交互作用がみられた。また、8つの因子のうち、「自己コントロール」「対人関係」「生活上の問題防止のスキル」「人生の重要事態に対処する能力」に有意な交互作用がみられた。下位検定を行うと、「社会的能力全般」「自己コントロール」「対人関係」「人生の重要事態に対処する能力」では、実践群が有意に上昇し、「生活上の問題防止のスキル」では統制群が有意に下降した。「ASSESS」では6つの因子のうち、「友人サポート」「非侵害的關係」「学習的適応」に有意な交互作用がみられた。下位検定を行うと、「友人サポート」では実践群が有意に下降した。また「非侵害的關係」では、実践群、統制群とも有意に下降した。さらに「学習的適応」では、実践群が有意に上昇し、統制群が有意に下降した。「規範意識・規範行動」では3つの因子のうち、「対人的規範遵守」「個人的規範遵守」

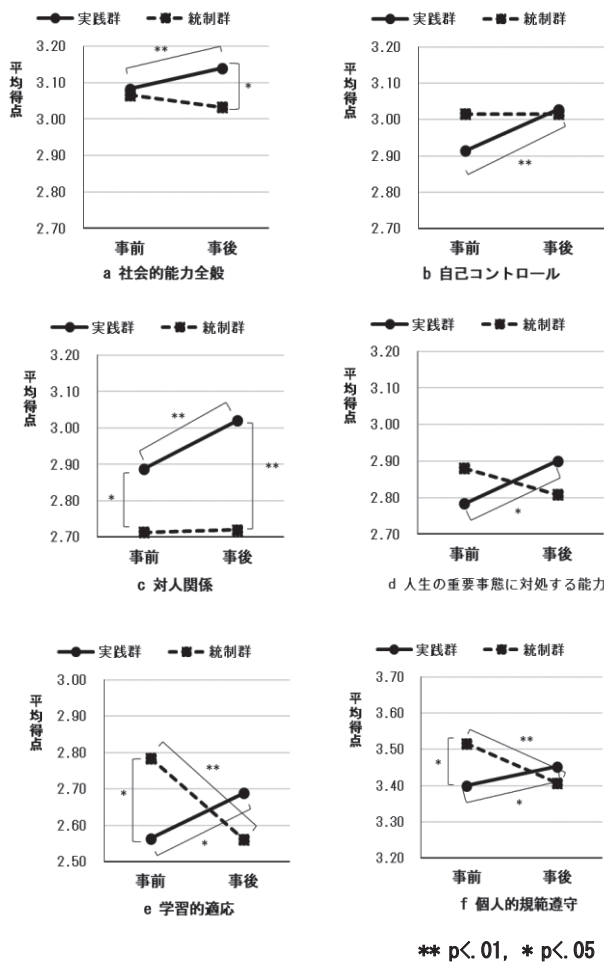


図5 1年生で有意な交互作用がみられた因子(抜粋)

に有意な交互作用がみられた。下位検定を行うと、「対人的規範遵守」では統制群が有意に下降した。また「個人的規範遵守」では実践群が有意に上昇し、統制群が有意に下降した(図5)。

2年生において、「SEL-8Career 質問紙」では8つの因子のうち、「他者への気づき」「生活上の問題防止のスキル」「積極的・貢献的な奉仕活動」に有意な交互作用がみられた。下位検定を行うと、3因子とも統制群が有意に上昇した。「ASSESS」では6つの因子のうち、「教師サポート」「友人サポート」「向社会的スキル」「学習的適応」に有意な交互作用がみられた。下位検定を行うと、「向社会的スキル」「学習的適応」では実践群が有意に上昇した。「規範意識・規範行動」では3つの因子のうち、「個人的規範遵守」に有意な交互作用がみられた。下位検定を行うと、実践群が有意に上昇した(図6)。

3年生において、「SEL-8Career 質問紙」では8つの因子のうち、「自己コントロール」に有意な交互作用がみられた。下位検定を行うと、統制群が有意に上昇した。「ASSESS」では6つの因子

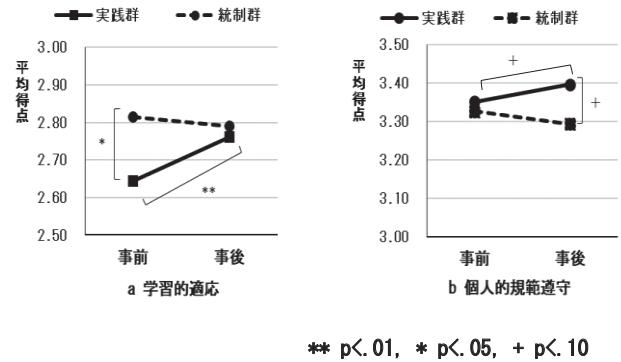


図6 2年生で有意な交互作用がみられた因子(抜粋)

のうち、「友人サポート」「向社会的スキル」「学習的適応」に有意な交互作用がみられた。下位検定を行うと、「学習的適応」では実践群が有意に上昇した。「規範意識・規範行動」では3つの因子のうち、「対人的規範遵守」に有意な交互作用がみられた。下位検定を行うと、実践群が有意に上昇した(図7)。

実践群の1年生は、2, 3年生に比べ社会的能力、学校適応感、規範意識・規範行動の複数の因子について時期による得点の有意な上昇がみられた。これは、実践回数の違いに関連があると考えられる。小・中学生版の社会性と情動の学習プログラムであるSEL-8Sでは、年間7回以上の実践で効果が期待できる(小泉・山田・箱田・小松, 2013)ことが報告されており、今回の実践でも同様のことが示されたといえる。さらに、統制群の1年生は、社会的能力全般と学校適応感、規範意識・規範行動の複数の因子について時期による得点の有意な下降がみられた。これらから、SEL-8Careerの実践を通して社会的能力が向上することによって、規範意識・規範行動の向上や学習的適応の促進に効果があったと推察される。

実践群の2年生は、社会的能力、学校適応感、規範意識・規範行動の複数の因子について、実践前と実践後で得点がほとんど変化しないのがみられた。これらは、昨年度の実践によりそれぞれの因子に関する能力が成長し、今年度も引き続き

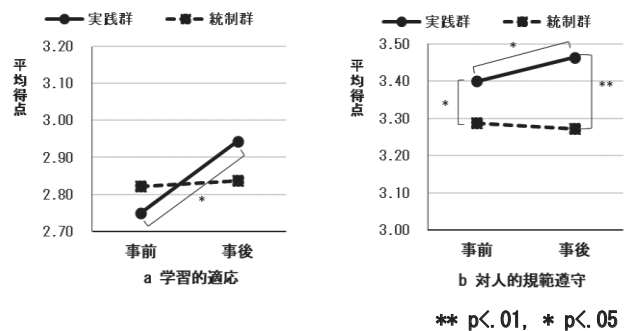


図7 3年生で有意な交互作用がみられた因子(抜粋)



維持されていることを示していると考えられる。今後、学習回数を増やすとともに、今回実施できなかった学校行事や校外学習活動との関連づけを図ることによってより高い効果が得られるのではないかと考えられる。

3年生は社会的能力について有意な交互作用がみられた因子が少なく、どちらの群も事前から事後にかけて社会的能力の得点が上昇していた。これは、実践群ではSEL-8Careerプログラムの学習回数が少ないために教育効果が出にくく、むしろどちらの群も進路決定に向けて学校以外の人と関わる機会が多くなることが関係しているのではないかと推測される。

**(イ) 教師の評価の変容**

SEL-8Career 質問紙(実践前)の結果において、8つの因子尺度の平均得点の平均と標準偏差をもとに、上位1/3を社会的能力高群、下位1/3を社会的能力低群、中間位を社会的能力中群とし、「SEL 8つの能力〔教師による評定〕」の8つの因子と「教員による生徒評価〔学校生活〕」の3つの因子について、群(3)×時期(2)の分散分析を行った。

1年生では、11の因子についてすべての群で教師評価が有意に上昇した。2年生では、11の因子のうち、「他者への気づき」「自己コントロール」「積極的・貢献的な奉仕活動」「教員との関係性」についてすべての群で教師評価が有意に上昇した。3年生では、11の因子のうち、「生活上の問題防止のスキル」「人生の重要事態に対処する能力」「積極的・貢献的な奉仕活動」についてすべての群で教師評価が有意に上昇した。一方、全ての学年において群と時期の交互作用は見られなかった。

これらのことから、教師はSEL-8Careerの実践後に、生徒の社会的能力が向上したととらえていることが示されたといえる。特に1年生においては、社会的能力だけではなく「授業への姿勢」も向上したと評価しており、SEL-8Careerの実践が学習に向かう姿勢の向上に寄与していることが推察される。

**(ウ) SEL-8Careerの効果に対するアンケート**

すべてのユニットを実践した後、生徒にSEL-8Careerの効果に対するアンケート(4件法)を実施した(表5)。全学年においてすべての項目で高い得点が得られた。また、表6のような記述がみられたことから、生徒はSEL-8Careerの効果を十分に感じており、今後の活用への意欲も高いことが推察される。

**(エ) 欠席率の推移**

実践群と統制群の令和2年度の欠席率(欠席日

数/授業日数)を比較した(図8)。実践群の欠席率は統制群に比べて低く、夏季休業後にいったん増加したものの、再び減少傾向を示していた。

**(オ) 特別指導発生状況の推移**

実践校の平成28年度から令和2年度の特別指導(停学及び訓告)発生件数を比較した(図9)。平成30年度と令和元年度を境に、特別指導発生件数が減少している。令和元年度の1年生と令和2年度の1,2年生の該当者が少ないことは、SEL-8Careerの効果との関連が推察できる。

表5 授業後アンケートの結果(平均得点)

項目	1年生	2年生	3年生
自己理解(注)	3.46	3.51	3.33
人間関係	3.44	3.45	3.27
将来への展望	3.46	3.53	3.37
奉仕の精神	3.07	3.32	3.09
今後の活用への意欲	3.67	3.66	3.49

(注) 自己理解に効果がある(以下同じ)

表6 授業後アンケートの記述内容

- コロナの後で友達ができるのか不安だった時に、友人を作ろうというSEL-8Careerがあったのがありがたかったです(1年生)。
- 「時間を大切に」の授業で、自分はあまり計画的に行動する事が苦手だったけど、計画のポイントを学んで計画が立てられるようになった(1年生)。
- 今までの授業のおかげでもの見方が変わりました。ネガティブだった自分も前より少しだけポジティブに考えようと努力するようになり、色々と自分のためになるのでよかったです(2年生)。
- 困っている人がいた時になんて声をかけたらいいかわからず困ってしまった事があったので、「いなり」を活かして人助けをしていきたい(2年生)。

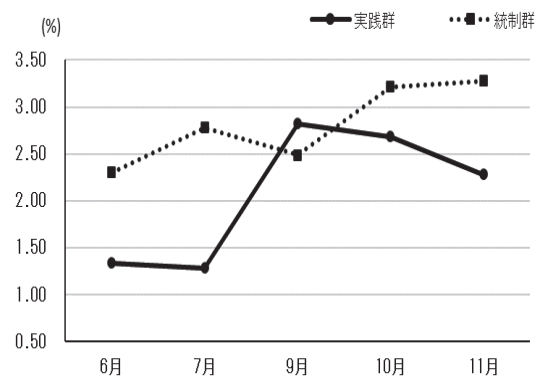


図8 令和2年度欠席率の比較

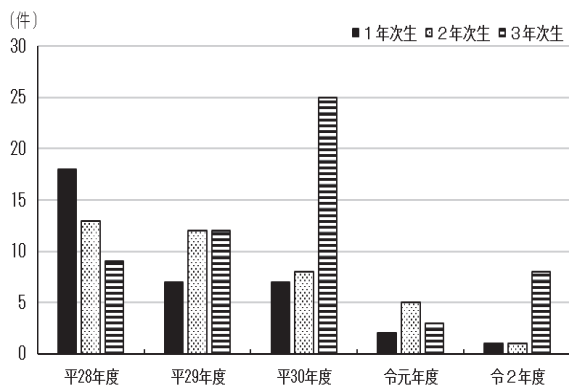


図9 実践校の特別指導件数の推移

## 5 総合考察

本研究では、高校生にSEL-8Careerを実践して社会性を育成することで、規範行動や学習に向かう姿勢の向上に効果があるかどうかを検証することを目的とした。研究Ⅰでは、SEL-8Careerの25のユニットを作成するとともに、1年生に試行的に実践した。その結果、「社会的能力全般」と「対人関係」「責任ある意思決定」「生活上の問題防止のスキル」の因子において、社会的能力低群の生徒の得点が有意に上昇した。研究Ⅱでは、全学年生徒にSEL-8Careerを実践し、協力校(統制群)と比較した。すると、特に1年生に関して、社会的能力の向上がみられた。また実践2年目である2年生は、社会的能力に関して一定の水準を維持していることが確認された。

これらの結果から、SEL-8Careerの実践が社会的能力の向上につながることを示唆された。さらに、規範意識・規範行動の因子にも有意な上昇がみられたことや、出席状況の推移、特別指導件数の減少からもSEL-8Careerの実践が規範行動の向上に効果があることが推察される。学習に向かう姿勢の向上に関しては、ASSESSによる学習的適応は有意な上昇がみられたものの、2、3年生は教師による評価にはつながっていなかった。今後は教師の授業改善もあわせて行っていくことで、学習意欲の向上を図る必要があると考える。

今後のSELプログラムの実践と持続に必要なものとして、アンカーポイント(anchor point=実践と持続の基点、以下、AP)という概念が提案されている(小泉, 2016)。SELプログラムの効果的な実践における必要十分条件がAPであり、今後の課題として、在籍校に必要なAPを述べる。

1つ目のAPは教師の実践力向上である。今回

の研究を通して、教師による必要性や有効性の考え方の違いや、指導法に対する抵抗感が、学習効果に関連することが予想された。全ての教師の実践力を高めるには職員研修の充実が有効であり、今後は教師の情報交換の場の設定や授業公開等も行っていく必要があると考える。

2つ目のAPはカリキュラムへの位置づけである。他の教育活動と関連付けて、子どもの行動変容を起こさせるような学習体験の流れと環境を意図的に構成することが重要であり(小泉, 2016)、学校行事、教科、総合的な探究の時間との関連を十分に吟味し、カリキュラムを作成する必要がある。例えば、3年生の「D4 要領よく上手に話そう」の学習は卒業研究発表会前に実践したが、授業者からは、「就職試験前に行ったほうがよい」という声が多くあった。今年度の実践から得られたこのような意見をカリキュラム作成に活かしていく。

3つ目のAPは家庭との連携である。卒業後の進路について家庭で話をするときなどに、保護者がSEL-8Careerでの学びを知っておくことは、子どもとの円滑な意思疎通に役立つであろうと考える。具体的には各種通信、学校ホームページでの情報提供や保護者参観の利用等が考えられる。

## 主な引用文献

- 小泉令三 2011 子どもの人間関係を育てるSEL-8S  
①—社会性と情動の学習(SEL-8S)の導入と実践—  
ミネルヴァ書房
- 小泉令三 2016 社会性と情動の学習(SEL)の実践と  
持続に向けて—アンカーポイント植え込み法の適  
用— 教育心理学年報, 55, 203-217.
- 小泉令三 2018 キャリア発達のための社会性と情  
動の学習(SEL-8Career)プログラムの試案構成 福  
岡教育大学紀要, 67, 4, 185-194.
- 小泉令三・山田洋平・箱田裕司・小松佐穂子 2013  
心理教育的プログラムの実践回数における学習効  
果差の検討—小中学校におけるSEL-8S学習プロ  
グラムの実践を通して— 日本教育心理学会第55回  
総会発表論文集, 342.
- 宮原紀子・小泉令三 2009 中学生の学校行事と関連  
づけた社会性と対人関係能力の向上 福岡教育大  
学教育実践研究, 17, 143-150.
- 文部科学省 2009 子どもの徳育の充実に向けた在  
り方について(報告)
- 文部科学省 2014 初等中等教育分科会高等学校教  
育部会審議まとめ～高校教育の質の確保・向上に向  
けて～

## 謝辞

本研究に際し、機会を提供してくださった福岡県教育委員会及び在籍校や協力校の校長先生をはじめ、ご協力いただいた全ての先生方に、心より感謝申し上げます。